

る\*。従来この地区の北の広大な石灰石地帯中には稼行の対象になりうるドロマイト鉱床はほとんどなく、また渡島半島西海岸に知られている鉱床は品質が劣り、運搬

が極めて不便な地域のため、顧られない状況にあるといわれる。北海道の石灰岩地帯におけるドロマイト鉱床の探鉱が今後残された課題である。(昭和25年8月調査)

雑 報

553.96 : 551.78 : 550.8 (521.83)

岡山縣上房郡中津井地区亞炭調査

要 旨

当地の第三紀層中には問題とするような亞炭は無い。

調査地, 調査班員, 期間

炭田および地区名 岡山縣上房郡中津井村横山および中津井津々炭徴地

調査者 商工技官 竹原 平一

期 間 昭和22年4月20日~4月23日

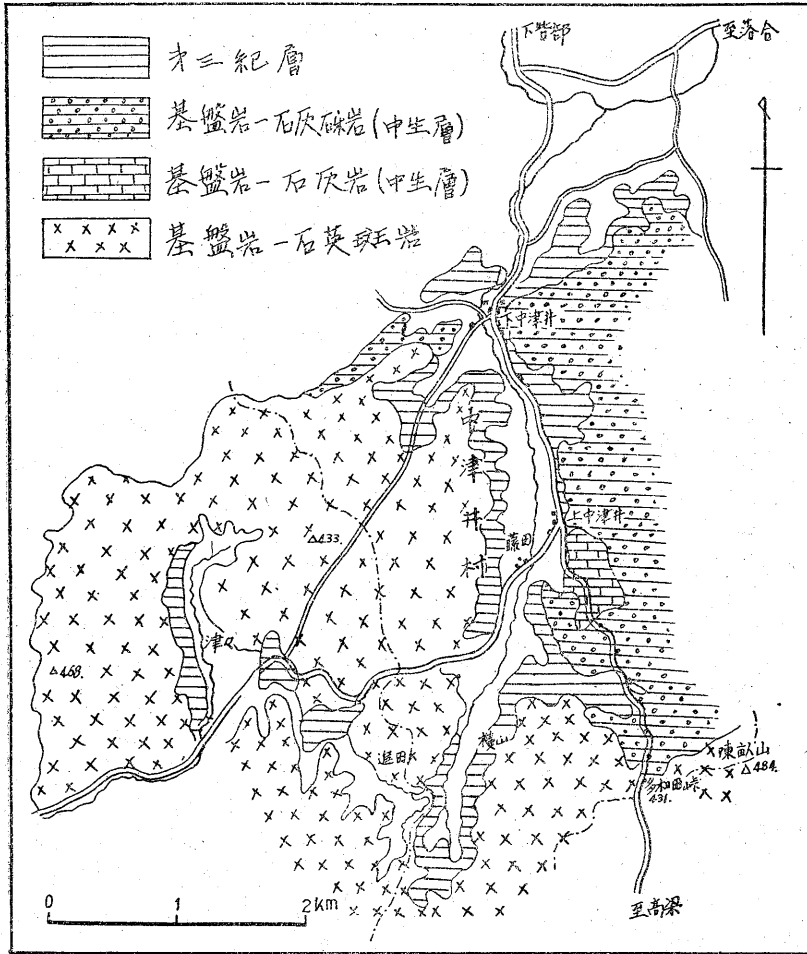
位置, 区域, 交通 本地域は藝備線落合駅の南西約20

kmの地に位し, 落合駅より中津井迄乗合自動車(1日1回)の便がある。区域の面積は津々および横山各1km<sup>2</sup>未滿である。

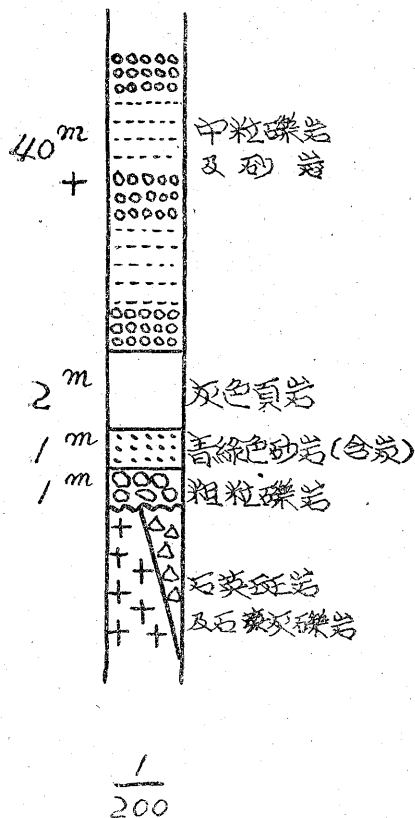
地 形 海水準200~240mの地に, 比高約200mの丘陵が連なり, その山麓に段丘狀に第三紀層が発達している。

地 質

地質概説 上部古生層に属する石炭岩, 硯石統に属する



第1圖 中津井村第三紀層分布圖

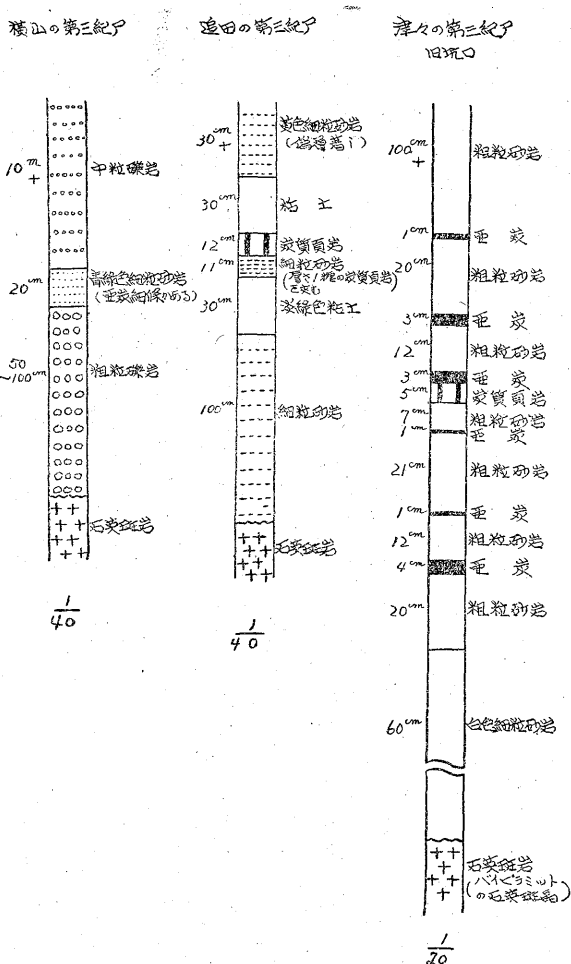


第2圖 第三紀層模式柱狀圖

石炭礫岩および中世代末葉あるいはその後の噴出に係る石英斑岩の上に第三紀層(植月統?)が不整合關係を示して覆蔽している。

地質構造 石灰岩およびその上に不整合關係を以つてのつている石灰礫岩は、中世代末、あるいはその後噴出した石英斑岩に貫かれて擾乱しているが、これ等を基盤岩として推積した第三紀層は水平層で著しい変動をうけていない。第三紀層は狭い谷の中に段丘状を呈して点々と小範囲に分布しているに過ぎない。第三紀層は海拔180mより270mの間に亘つて分布しているが、覆蔽現象を示しているため、その下部は地表調査では観察困難である。

夾炭層 第三紀層の層序は(第2図)模式柱状図の如きもので、本層は主として砂岩および礫岩より成り、著しい偽層を有し、浅水中の堆積物である。本層は津々・追田・横山・下中津井に露出しているが、炭質物を挾有している地層は下部の砂岩のみで、しかも顯著な炭層は全く知られていない。木層の厚さは大約60m以下である。化石未発見のために本層の時代は明らかでないが、岩質および堆積状況より判断すれば、本層は岡山、広島兩縣に発達している中新統(植月統)に対比される。津々にお



第3圖 柱状圖

いては嘗て厚さ5cmの炭質頁岩の露頭を追い、奥行3mの水平坑道を開鑿したが、期待に反してその炭質頁岩は尖滅したので、これを放棄した事があつた。また横山においては田の土手に露出している青灰色細粒砂岩中に、直径20cmの石英團が挾在していたので、これを採集して家庭の燃料としたという。ただし現在はその箇所の砂岩中に幅数mmの亞炭の細條が見られるのみである。

各地の層序(第3図参照)

基盤岩層 古生層に属する石英岩、これを不整合關係を以て被覆する硯石統(中生層)に属する石灰礫岩、これ等を買いて噴出した石英斑岩(中生代末葉またはその後の噴出に係る)等である。

第三紀層下底の不整合面は凹凸があつて海拔180~270mの間に分布する。

結論

亞炭開発の見込は無い。

(竹原平一 中村久由)